



かあ
らす

英ケンブリッジ大で科学ワーク

福島市の福島高の宮川将一朗君（二年）と佐藤雄大君（同）、阿部翔太君（三年）は二十二日からイギリスのケンブリッジ大で始まる「2011 ケンブリッジサイエンスワーキショップ」に参加する。日本とイギリスの生徒が科学実験やワークショップを通じ交流

するイベント。「原発事故のあつた本県の正しい情報を伝えたい」と三人は意欲いっぱいだ。

科学教育などに取り組む日英の大学や団体が共催する。八月四日まで、両国の高校生がケンブリッジ大研究者の指導を受け、最先端の科学を実験などで体

験する。チームに分かれたディスカッショーン、文化交流、ホームステイにも取り組む。今年度は大震災を受け、被災した本県と宮城県、茨城県から五校が招待され、本県からは福島高が選ばれた。三人は面接などの選考を受け、代表生徒に選ばれた。原発事故の被災県として、県内の放射線量のデータなど

を英國の生徒に示すと
いう。宮川君は「原発
などの知識を深め、將
来に生かしたい。新し
い価値観も知ることが
できるはず」と抱負を
語った。

佐藤君は「海外で学
ぶ希望がかなった。原
発事故後の福島県への
間違ったイメージを正
しく伝えたい」と述べ、
阿部君は「海外の研究
視点などを学び、科学
部員として三年間学ん
だ天文学の成果を発表
したい」と話した。